

れ、私はこの本を読み、成長に一番大切なことは、愚直に真面目に素直に努力し続けることであるということを学びました。私は何事にも飽きず、ほく継続して行うことが不得意で、中々続いたことがありません。そればかりの努力をしたら、一人並みにでき、そこ満足してしまいい、それ以上の成長を求めません。でも、それが自分では自分のポテンシャルに甘えてばかりで、自分を成長させていくことはできません。始めは一生懸命やるといても、なぜやる必要があるのだろうかと考え、やめてしまったり、疎かになつてしまふことが多々あります。それは私自身がそのや夫が出来ておらず、価値のあるものへと変換できているのか、だからだと感じました。やはり続けた方向に側にはかない、更なる発見や気づきがあり、その先にしか成長がないことを学び、また私は自分にとって都合のいい面や逆に都合の悪い点など、端的にしか物事を見

れていばかりに、ことを感じました。物事をも、
と各方面から見えるようになるには、探求し
たり、乗り越えたりからこそ、聞いた話ではな
く自分の実体験として、より深く意味を理解
するにこそが、でき、考えの幅を広げ、物事を見
る目を養って、いけるのだと感じました。つ継
続する力こそ仕事を成功に導き、人王を価値
あるものにするにこそ、でき、真の能力であ
る。とあり、これを自分のものとしていける
よう焦らず、腐らず、折れることなく、何事
にも愚直に取り組んでいきたいと思いました。
またそれを続けていくための強い思いも必要
だ。私はまだ明確な願望がないので、自分
はどうはりたいか鮮明にイメージできよう、
もっと自分と向き合い、深求していきませう。
また本の中で、人並以上の誰にも負けない、
努力を無限に続けなければならぬ。これは
特別な事だと考え、しまいが、自然界
を見れば、どんな動物も植物も一生懸命に生
きていて、人間だけが楽をやることを願う。

とあり、私も特別なことのように感じています。また、自然の摂理から考えれば、懸命は毎日を送ることには、ごく当たり前のことで、特別なことを学ばず、また頑張ることや特別なことをは、それなことで済ませたい。ただ、今までの努力ができていないか、たまたまの甘さをしているのではないかと思ひ、自分の甘さを改めて感じている部分でした。こういって、飽き、ぼく、継続することや苦手という部分を自分で理解をし、それをどのようにしたら継続するようになるか、克服していくことや、日々の瞬間瞬間を大切に、創意工夫を重ね、努力を続け、成長していきたいと思ひます。